

INFO ①

Pâtisserie Ruelle 営業再開しました

「Pâtisserie Ruelle」は昨年10月より、パティシエの体調不良を受け、一時休業させていたおりました。12月から新たなパティシエも入り、チーム一丸となって営業を再開しております。

コロナ禍で、会えないお孫さんへの贈り物やサプライズでのケーキギフトのご注文をはじめ、ちょっとしたご褒美など、たくさんの方々が再開を自分事のように喜んでくださいました。その想いを大切に、これからも、地域に愛される店舗を目指してまいります。



INFO ②

U-gohan お弁当メニュー、リニューアルしました！

「北海道の米と汁 U-gohan 東大正門」では新メニューが仲間入りました。U-gohanのお弁当は全て、野布瀬農園で育てたお米を使用しています！



北海道の米と汁
U-gohan
東大正門



豚丼弁当

厚切りのお肉をU-gohan特製甘辛タレで香ばしく焼いた、北海道名物の豚丼です。美味しい！と、にわかに噂が広がりました。ピーターも増えつつあります。

コロッケ弁当

野布瀬農園で育てたジャガイモやカボチャを使ったコロッケ弁当。ぺこぺこのはたけの皆さんが丁寧に丸めたコロッケは、素材の味を感じられる優しい仕上がりになっています。

※新型コロナウイルスの影響により、現在は臨時休業しております。
営業に関する情報は、随時SNSで更新予定です。

ザンギ弁当

止みつきになる美味しさで、U-gohan1番人気のお弁当です。

INFO ③

ぺこぺこのはたけ お弁当のご紹介

ぺこぺこのはたけでは、テイクアウトのお弁当も承っております。

毎月内容の変わる小鉢弁当は、何回食べても楽しめるスペシャルなお弁当。おかずをちょっとなんか食べたい欲張りさんにぴったりです。その他、焼売弁当やコロッケ弁当など、ボリューム感も楽しめるお弁当もご用意しております。



季節の小鉢弁当 (900円)

※3日前までのご予約をお願いします。
店頭での受け渡しのみとなっております。

●お弁当のご予約はこちらから
〒061-3776
北海道石狩郡当別町太美町1481-6
TEL: 0133-27-6440



焼売弁当 (600円)



コロッケ弁当 (600円)

Donation 寄付について

ゆうゆうの活動にご支援をお願いします

●社会福祉法人への寄付について

1 個人の場合 2 法人の場合 3 相続による寄付の場合

所得税の寄付金控除または税額控除が受けられます。

一般の寄付金とは別枠で、法人税法上の損金算入ができます。

租税特別措置法により相続税が非課税となる場合がありますのでご相談ください。
※個人で適用を受けるためには確定申告が必要です。

私たちの考え方、事業に共感していただける皆さまからの寄付を受け付けています。

超少子高齢・人口減少社会などの社会課題に対し、「ひとりの想い」を大切に福祉実践を展開し継続した活動をするためには、皆さまの力が必要です。ぜひ活動へのご支援をお願いします。

領収書について

寄付金控除を受けるには、「寄付金」の但し書きのある領収書が必要です。当法人発行の領収書をご希望の方は、お電話又はWEBお問い合わせフォームから依頼ください。

TEL: 0133-22-2896
<http://yu-yu.or.jp/contact/>



YOU YOU MAGAZINE WINTER

デザイン／株式会社ブリオンデ 山崎啓太郎 発行／社会福祉法人ゆうゆう 事務局 広報 tel: 0133-22-2896 mail: info@yu-yu.or.jp

YU YU
social welfare
corporation
yu yu



ゆうゆうの今を伝える広報紙

YOU YOU MAGAZINE

ゆうゆうマガジン



2021 / 1 WINTER

地域社会で子どもを育む

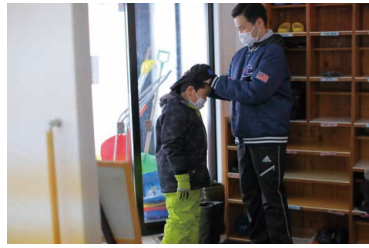


湯川 正雄

2018年4月入職 地域子育て推進室所属

以前は、肢体不自由児の通園施設と札幌市発達医療センターで作業療法士としてリハビリテーションを担当していました。作業療法士は生活支援を専門としており、お子さんの現在の状態からよりよい生活を送るためにはどのようにしたら良いかを考えて関わっています。現在は放課後等デイサービスamaririsuにてお子さんの育ちを支援すること、ご家族の育児に関する相談事に対して支援を行っています。

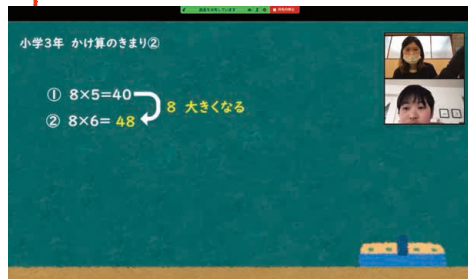
ご家庭への支援・地域の子育て支援



amaririsuでは、学校生活や家庭生活にて特別な支援が必要なお子さんを対象としています。支援の内容としては、お子さんに対して運動発達や言語発達、社会性の発達を促すかわりをする発達支援のほか、保護者の育児相談や

家庭での困りごとに対して支援を行う家庭支援を行っています。家庭支援の中には、ご家庭での突発的なできごとに対してお子さんの安心安全な過ごし場の提供することでご家族の不安感を減らすことも行っていますので、お困りのことがあればご相談ください。その他、地域支援として地域の関係機関、主に学校との連携を図り、情報共有を行い、お子さんの状況にあわせてより適切な支援となるよう努めています。

居場所・学習の機会をサポート



江別市内で学校に通学出来ない児童の居場所・学習等の活動を担保する取り組みとして、kaedeは今年度より不登校のお子さんに対するサポートを開始しました。通所とオンライン療育の2種類があり、様々なアプローチを積み重ねていく中で当初出来なかったことが出来るようになる姿、知らなかった経験・体験を通じて自身の可能性を広げてお子さんが成長していく姿を目の当たりにしました。ご本人の成長や自己肯定感を育みながら「社会」とどのように繋がっていくか、どのように向き合っていくのか、日々のお子さんとの関わりの中から私たち職員も学び・成長しています。この実践を今後も引き続き行っていきたいと思ひます。



次の「あたりまえ」をつくる プロジェクト



1 重層的支援体制の構築に向けて

障がいや介護、貧困、ひきこもりなどの複合的な課題を抱える世帯に対し、包括的に相談を受けとめる支援体制を整備するためのプロセスを解明する研究事業を北海道医療大学と共同で実施しています。当別町と苫小牧市の2市町で、地域共生社会の実現のための相談支援・参加者支援・地域づくりに向けた支援の必要性について、関係者との共通認識作りや地域ごとの課題抽出などを行ってきました。年明けからは、さらに具体的な関係者協議へと進んでいきます。

2 介護のしごと魅力発信等事業

一般社団法人FACE to FUKUSHIから委託を受け、道内16校にて中高生向けの福祉教育を行っています。本事業は、福祉の魅力を一方的に伝えるのではなく、講話による福祉の実践や福祉に関わる人の生き様を通して、学生が自分自身のことを考える機会づくりに取り組んでいます。私たちが伝える一言が一人ひとりの学生に大きな影響を与えていることを実感し、さまざまな想いを受け止め、受講生向けの公式LINEアカウントを開設しました。

新型コロナウイルス感染症対策 隔離施設の整備について

グループホーム入居者が新型コロナウイルスに感染した際に、療養場所として使用するSocial Care Farm野布瀬農園の住宅の改修工事が完了しました。（隔離施設として使用しない期間は、農作業の休憩場所として活用予定です。）

改修工事については「令和2年度 新型コロナウイルス感染症 緊急包括支援交付金」を受けて実施し、住宅で使用する備品の購入やゾーニングの整備には、寄附金を活用させていただき準備を進めています。

施設内は最大5名が療養できる居室があります。嘱託医監修のもと、備品の設置場所や出入り口の検討、感染者が出た場合の入居者・支援者の動き方をイメージしながら、シミュレーションを重ねています。

また、使わなくなってしまった家具・家電を寄贈して下さった方もいます。当法人の活動をお伝えしたところ、「ぜひ使ってもらいたい。お役に立つならば寄附させてもらいたい」と温かいお言葉をいただき、ベッドや布団、空気清浄機、食器類等を譲っていただきました。

皆様のご厚意に心より感謝申し上げます。

感染者が出ず、隔離施設として使用しないことが一番ではありますが、万が一の事態に備えて、今後も気を引き締めて感染症対策を行ってまいります。



新たな『学び』のしくみ



野布瀬農園での研修風景

10月～12月の3か月間、「社会福祉法人はるにれの里」と互いに職員1名を送り出し、取り組みや支援スキルを学ぶ「人事交流研修」を実施しました。

3か月間という長期の研修は実体験を通した学びが多く、対象となる職員はもちろんのこと、送り出す側・受け入れる側、関わった職員全員にとって実りのある研修となりました。2月には共催で研修報告会を実施して、在籍する法人の職員に成果報告を行う予定です。



松川 真子

社会福祉法人はるにれの里
生活介護事業所ほねーる所属

3か月間職員の方々、利用者さんとそのご家族の皆様には大変お世話になりました。研修では利用者さんと想いを共有する大切さとチャレンジ精神を改めて学びました。そしてゆうゆうは当別という地域を支え、支えられている法人だと教えていただきました。これからは利用者さんと支援者共々作業や遊びなど色んなことに挑戦してみようと思います。研修は終わりますが、今後も法人同士の交流を楽しみにしています。



大谷 朋香

社会福祉法人ゆうゆう
地域生活支援部所属

この3か月という期間は自分の中でとても学びが多く、改めて基本に立ち返り、また大事にしたいことを再確認出来た日々でした。まだまだ勉強不足なところはありますが、学ばせて頂いたこと、研修の中で感じたことを今後のゆうゆうの場で活かしていきたいと思っております。このような機会を頂き、本当にありがとうございました。今後とも、どうぞよろしくお願い致します。

就労継続支援A型事業所U-Gardenの開所

11月2日より、ゆうゆう初の就労継続支援A型事業所となる「U-Garden」が開所しました。ここでは法人内の事務や清掃業務のほか、北海道医療大学から資料の封入作業などを受託し、仕事上の様々なスキルを身につけるため少し苦手な作業にも毎日一生懸命チャレンジしています。U-Gardenでの就労をゴールとせず、いずれ一般企業等への就職を目指して、障害のある方が地域で働く新たな可能性に、一緒に取り組み歩んでいく事業所を目指していきます。



新卒内定者 交流会

ゆうゆうでは、2021年4月に入職予定の新卒内定者が4名決定しています。例年であれば、当別町での内定式や交流の場を設けているところですが、今年は定期的にオンラインで内定者交流会を実施しています。内定者の学生から「若手職員や道外出身の職員から話を聞いてみたい」といった声があり、12月は1～2年目の先輩職員との交流会を実施しました。対面で会って話すことが思うようにできない状況下で、気になっていることを積極的に職員へ質問したり、年齢の近い職員と交流を楽しんでいる様子がうかがえました。



ゆうゆう忘年会

12月11日（金）、当別・江別の事業部では約50人が参加する伝統の忘年会がオンライン上で開かれました。こんなご時世ですので、参加者の職員はそれぞれ自宅から参加し、チーム対抗のクイズや今日のお食事披露、今年体験した良い話と悪い話を披露して盛り上がりしました。今年は地域生活支援部が念願の初優勝を成し遂げ、豪華賞品が入った福袋を獲得しました。みんなで集まってお酒を飲むことはできませんでしたが、オンライン上でワイワイがやがや楽しいひと時となりました。

